

## HELICS協議会の活動

HELICS 協議会は、国民の健康と良質な医療の提供を行うために必要な標準規格を審査し、医療情報標準化指針として採択します。また、厚生労働省の保健医療情報標準化会議は、医療情報標準化指針を基にわが国で利用されるべき医療情報分野の標準規格をさらに選定し、厚生労働省標準規格として認定しています。

### 医療情報標準化指針(HELICS 指針)一覧 (2023年3月現在)

●各指針の詳細は、HELICS 協議会のホームページをご覧ください。

HS001	医薬品 HOT コードマスター
HS005	ICD10 対応標準病名マスター
HS007	患者診療情報提供書及び電子診療データ提供書（患者への情報提供）
HS008	診療情報提供書（電子紹介状）
HS009	IHE 統合プロファイル「可搬型医用画像」およびその運用指針
HS011	医療におけるデジタル画像と通信（DICOM）
HS012	JAHIS 臨床検査データ交換規約
HS013	標準歯科病名マスター
HS014	臨床検査マスター
HS016	JAHIS 放射線データ交換規約
HS017	HIS,RIS,PACS, モダリティ間予約, 会計, 照射録情報連携指針（JJ1017 指針）
HS022	JAHIS 処方データ交換規約
HS024	看護実践用語標準マスター
HS026	SS-MIX2 ストレージ仕様書および構築ガイドライン
HS027	処方・注射オーダ標準用法規格
HS028	ISO 22077-1:2015 保健医療情報 —医用波形フォーマット—パート 1：符号化規則
HS029	患者状態アウトカム用語集ベーシックアウトカムマスター
HS030	データ入力用書式取得・提出に関する仕様（RFID）
HS031	地域医療における情報連携基盤技術仕様
HS032	HL7 CDA に基づく退院時サマリー規約
HS033	標準歯式コード仕様
HS034	口腔診査情報標準コード仕様
HS035	医療放射線被ばく管理統合プロファイル
HS036	処方情報 HL7 FHIR 記述仕様
HS037	健康診断結果報告書 HL7 FHIR 記述仕様
HS038	診療情報提供書 HL7 FHIR 記述仕様
HS039	退院時サマリー HL7 FHIR 記述仕様
HS040	「製造業者 / サービス事業者による医療情報セキュリティ開示書」ガイド



(医療情報標準化指針一覧のページへ)



### ●一般社団法人医療情報標準化推進協議会(HELICS協議会)への入会のご案内

保健医療福祉分野も急速なICT化の波を受けて情報の標準化に関するニーズが急速に高まりつつあります。この動向を受けて、保健医療福祉情報の標準化活動を行う団体間での一貫性のある活動を実現するために、標準化の方針と内容について協議を行うことを目的として、HELICS協議会が設立されました。標準化活動にご関心が高い個人や団体(賛助会員)や標準化活動を行っている団体(社員)の入会をお待ちしております。入会案内等については、事務局までお問い合わせください。

### 一般社団法人 医療情報標準化推進協議会 事務局

〒162-0825 東京都新宿区神楽坂一丁目1番地 神楽坂外堀通りビル  
一般財団法人医療情報システム開発センター内

TEL : 03-3267-1923 FAX : 03-3267-1931 e-mail : helics-admin@umin.ac.jp

<http://helics.umin.ac.jp/>

(2023年10月版)

一般社団法人

# 医療情報標準化推進協議会 (HELICS協議会)

日本の医療情報をバベルの塔にしないために

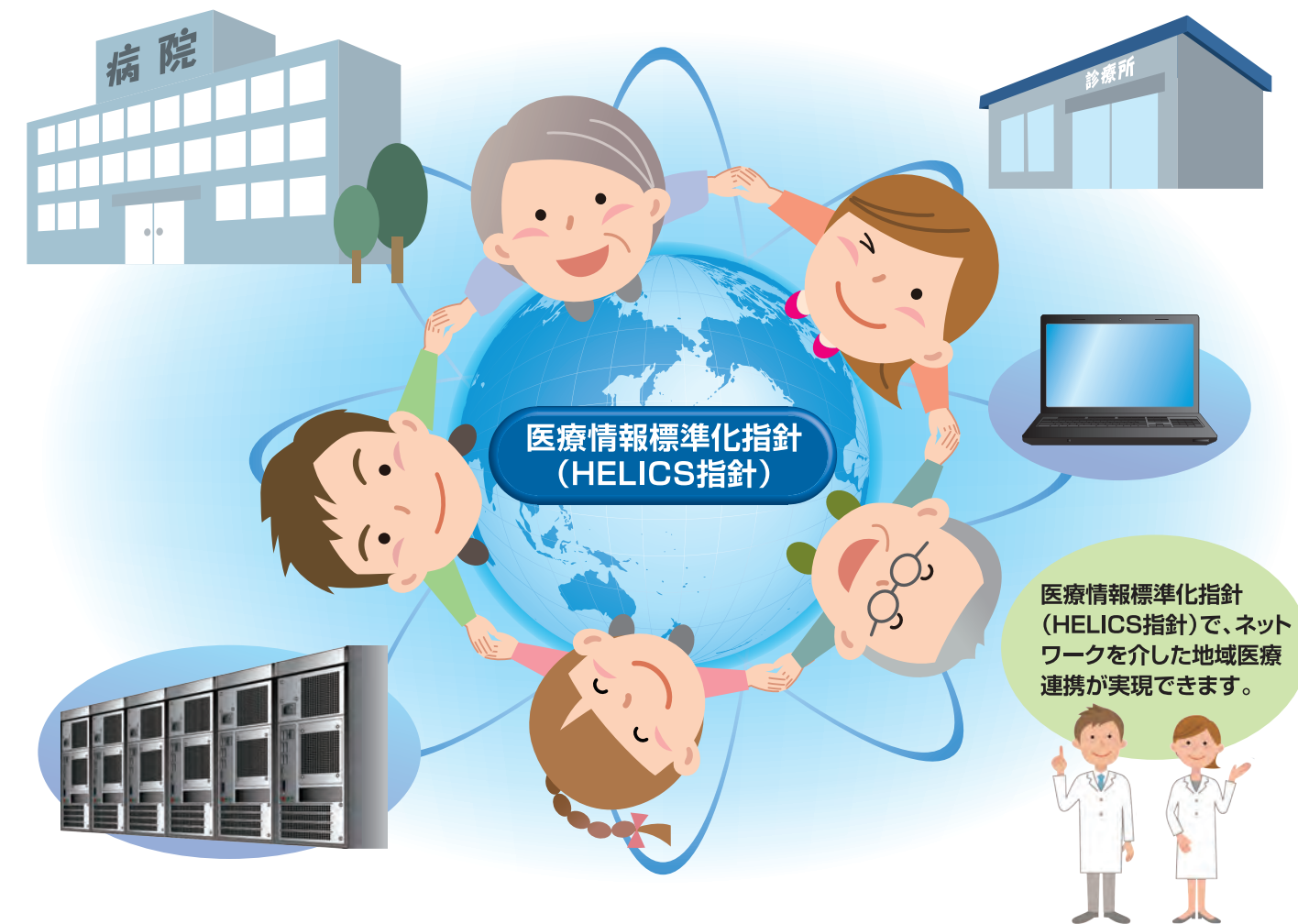
### ●貴方の病院の医療情報はこんな課題を抱えていませんか？

- 他の病院から受け取った医療情報だがコードが違うので利用できない!
- 他の病院からの紹介状を受け取ったが、元の病院の過去データを参照できない!
- 過去の処方情報が参照できない!

医療情報の標準化を進めよう!



- HELICS協議会は、医療情報に関する標準化を推進し、適用分野別に推奨すべき標準を審議・採択し、『医療情報標準化指針(HELICS指針)』として公開する活動を行っています。



HELICS 協議会は、2023年3月現在、医療情報システム開発センター (MEDIS-DC)、日本医学放射線学会 (JRS)、日本医療情報学会 (JAMI)、日本画像医療システム工業会 (JIRA)、日本放射線技術学会 (JSRT)、保健医療福祉情報システム工業会 (JAHIS)、日本 HL7 協会、日本 IHE 協会 (IHE-J)、日本放射線腫瘍学会 (JASTRO)、流通システム開発センター (GS1)、MedXMLコンソーシアム (MedXML)、医療データ活用基盤整備機構 (IDIAL) の各団体が社員として活動を行っています。



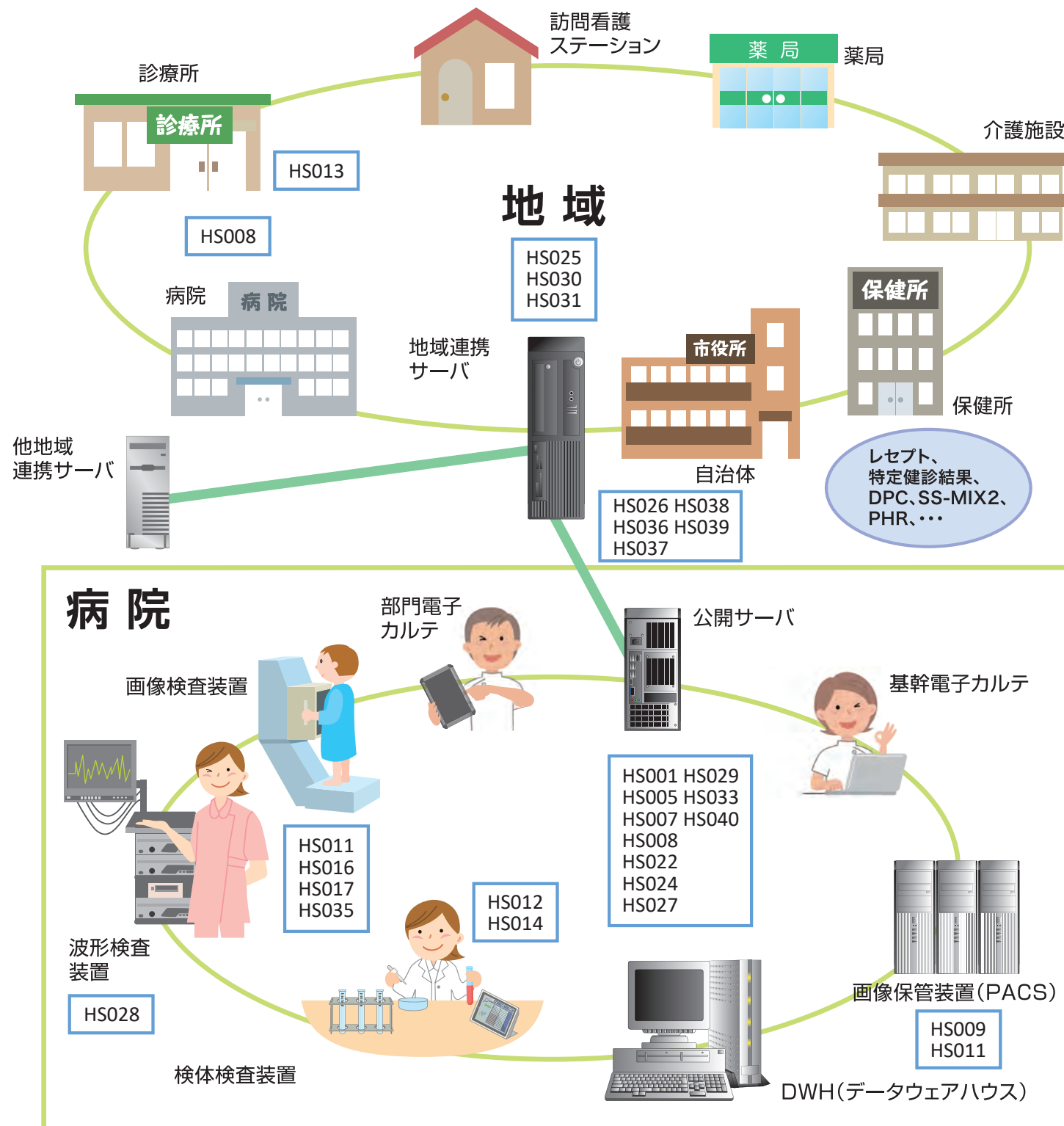
## 病院内および地域医療連携における標準規格

病院内では部門電子カルテと基幹電子カルテ、検査機器と電子カルテ、検査機器どうしなど多くのシステムや機器を、ネットワークを介して接続し活用していく必要があります。

また、地域では病院、診療所、薬局、訪問看護ステーション、介護施設などが様々なシステムを活用して患者の保健医療情報の共有を行うことで、質の高い地域包括ケアを実現することができます。

HELICS協議会では推奨すべき医療情報の標準規格を関連団体からの申請に基づいて医療情報標準化指針として審査し採択しており、これら指針の多くは厚生労働省標準規格として定められています。

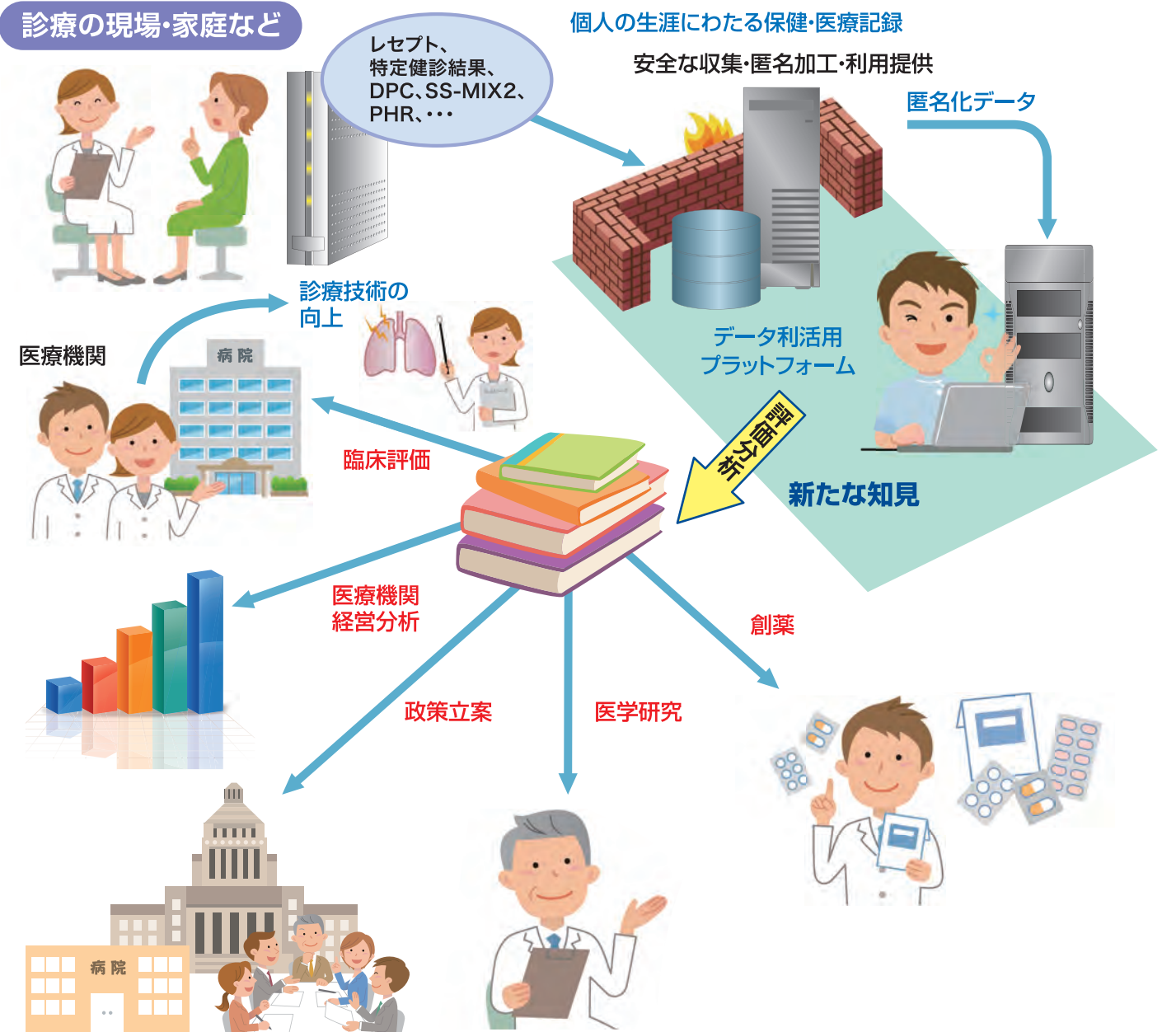
### 診療の現場における情報の利用と適用可能な医療情報標準化指針



注) HSxxx は裏表紙の医療情報標準化指針 (HELICS指針) 番号を示す。

## ICTを活用する保健医療システムへ

厚生労働省は、平成27年6月「保健医療2035提言書」\*1、\*2を発表しました。そこでは、「すべての人が安心していきいきと活躍し続けられるように様々な暮らし方・働き方・生き方に対応できる20年先を見据えた保健医療システムをつくる」としています。このシステムの構築には、「つくる：集まるデータから生み出すデータへ」、「つなげる：分散したデータからデータの統合へ」、「ひらく：たこつぼ化から安全かつ開かれた利用へ」と3つのパラダイムシステムが必要とされています。貴重な保健医療データを活かす仕組みが必要とされているのです。



この提言書に述べられていることを実現するためには、診療現場から生成される診療情報や個人の健康管理のために記録管理される保健医療データが、標準化され、プライバシーに配慮しつつ相互に関連付けられ、しかも安全に利用できる環境を整備しなければなりません。HELICS協議会は、会員相互の協力の下、関係機関と連携し保健医療データを安全に利活用できるプラットフォームの実現に向け、さらなる指針の発掘、整備に取り組んで参ります。

\*1：保健医療2035： <http://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/hokabunya/shakaihoshou/hokeniryouto2035/>  
 \*2：ICTを活用した「次世代型保健医療システム」の構築に向けて「データをつくる」・「つなげる」・「ひらく」  
<http://www.mhlw.go.jp/file/05-Shingikai-12401000-Hokenkyoku-Soumuka/0000150845.pdf>